

令和3年9月27日

行政との意見交換　資料

（テーマ）

「魅力のある街づくり」　「住みやすい街づくり」

朝倉介護保険事業者協議会

（居宅介護支援部会）

○オンライン診療の推進

　　現在、新型コロナウィルスの影響があり、オンライン診療についても議論されている最中であるとは思います。システムの問題やセキュリティの問題など、その他にも普及するまでに課題がある事かと思いますが、オンライン診療が普及することで、住みやすい街になるかと考えております。特に独居の高齢者の世帯では、別居の家族が仕事を休んだりして、受診支援をしている事があるかと思います。そうした方がオンライン診療を利用できる体制がある事で、家族・本人の負担も軽減できるのではないでしょうか？

また、高齢者がタブレットを利用することが難しい状況は十分考えられるため、訪問看護や訪問介護などに、オンライン診療の支援を行ってもらえるようにする事。また、その支援を介護保険にも反映できるようにする（加算等）事で、独居高齢者であっても利用が可能になると思います。

〇市町村恒例イベントに「健康・福祉フェスティバル」の開催を提案します。（合同開催）

老若男女問わず参加できるため、このイベントを開催する事で、健康・福祉に対する意識高揚や情報収集および、気軽に専門職へ相談（医療・介護・栄養（食）など）ができればと考えます。また、各地区サロン・教室の発表会・作品展示会・販売や福祉施設からの作品展示などを行う事で、高齢者は生き甲斐・遣り甲斐を感じる事ができるとともに、人と人との繋がりが生まれてくると思います。

「健康・福祉フェスティバル」を通じ、街の魅力づくりと、歳を取っても住みやすい街になればと考えます。

○行政の「介護保険事業計画」「総合計画」「地域福祉計画」及び、社協の「地域福祉活動計画」を円滑に実施できるように、介護分野として協力できる事を、検討する必要があると思います。

○国の「住み慣れた地域で最後まで」と、言う事に逆行するかもしれませんが、自宅で介護が困難になった時に、早期に入所・入居できる施設があれば良いと思います。

〇受診・買い物等外出の送迎を、介護保険制度以外で、いつでも軽費で利用できる仕組みがあると良いと思います（車いす含む）。外出が増える事で、元気に過ごせる高齢者が増えると思います。

〇シルバー人材センターを、より気軽に利用できるような仕組みがあれば良いと思います。

〇移動図書館に大きい活字本が、あれば良いと思います。

〇「老い」や「認知症」についての理解不足や関わり方などが分からない介護者が多く見受けられます。介護者への理解・情報提供を、どういう形で普及させたら良いのか、議論が必要と思います。

〇朝倉市は、訪問介護事業所が不足している実態があります。在宅生活に支障を来さないよう、サービス提供ができるように検討および、フォローしてほしい。

〇高齢者の買い物難民が増えています。特に山間部の方などの対策を考えてほしい。

○使いやすい巡回車の配置を希望します

　高齢者が増えて車の免許返納が叫ばれていますが、実際車が無いと生活に困る方が多数います。

　家族と同居の方は減ってきていますし、独居や高齢者世帯の数も今後増えると思います。

　地域の支え合いも必要ですが、行政のサービスとしての巡回車を細かく回れるようにしてほしいです。

　予約制になっている地域は、認知症の方などは予約を忘れるため使い辛いです。

　お世話係を作るなど細かいサービスがあれば良いと思います。

○社会福祉士の専門職を正職員として位置づけ、増やしてほしい

　現在、朝倉市には社会福祉士の専門職は介護保険課の高齢者サービス係にしか在籍していません。

　「住みやすい街」にするには子供から高齢者まで相談できる窓口を作り、専門職を置く必要があると思います。

　久留米市では福祉課などにも社会福祉士が在籍しています。

　朝倉市は財政が厳しいのは承知していますが、例えば税金の滞納などの原因を探る時や保護の申請が必要な時も、現状を把握し分析できる専門職がいると、解決できるケースもあると思います。

　朝倉市はワンストップサービスを行っていますが、相談窓口もワンストップで行えるようになれば、各課に回されその担当課も、随時対応する手間が省け仕事も効率化するのではないでしょうか。

○神経難病等、重度の方の受け入れ先の確保。

　介護保険施設では医療ニーズが高く、受け入れが難しい。近隣病院に相談してもより重度でリスクが高くなると　断られる。在宅生活を継続するため、遠方ではなく近隣に受け入れ先があると助かります。

○生活困窮者に対する支援。

　明日食べるものがない、衣類やおむつ等がない等、緊急で食事や衣類等の支援が必要な場合があります。行政で非常食等の備蓄をしてもらい、災害時以外でも必要に応じて相談できると助かります。

○認知症の方に対する地域の支援体制の強化。

　介護サービスや包括支援センター、民生委員だけではカバーできない場合があります。

　スーパー等で一言声をかけてもらえるだけで困難事例にならず、日常生活を送れると思います。

　オレンジリングの取り組み等、地域でどの程度実践できているのか疑問があります。

　警察や民間事業所等との交流を図る機会を増やし、連携を取れるようにしてほしい。